

2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 16 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏 名	吉羽一之
研究課題	啓発ツール制作における美観性及び色彩設計についての考察				
研究キーワード	グラフィックデザイン、 タイポグラフィ		当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任 つかう責任	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

2022 年度の研究活動の一環として、鎌ケ谷市で活動中の市民団体との協働プロジェクトとして『鎌ケ谷防災かるた』のデザインを担当した。防災かるたを協働で制作したゼミではかるたを用いコミュニティの形成についての検証に取り組み、使用感や情報の伝達性、娯楽性など、デザイン面でのフィードバックを受けた。そのフィードバックをふまえ、かるたに続く次のツールとして、同ゼミとの協働し、子供が課題をクリアしてシールを集めるシール手帳のデザインに取り組んだ。手帳を使用する対象は子ども食堂に集まる子供たちと設定されていたため、共同研究者やそのゼミの学生の考えた課題の内容を対象者に伝達するための手段として、キャラクターの設定とそのキャラクターによる課題への誘導、文字サイズ、UD 書体、ツール全体の配色と課題毎の配色のバランス調整を検討した。加えて、キャラクターグッズの現状についての調査を行った。現在子供たちが目にするキャラクターは多く存在するが、その大半がコレクション要素を盛り込んだものが多いことが確認できた。自身が最も好きなキャラクターだけではなく、その周辺のキャラクターもコレクション対象となるよう、キャラクター全体の統一感と各キャラクターの設定の両方が重視されているものを多く見ることができた。そこで、このプロジェクトにおいても、単なる課題完了の意味合いを持つシールではなく、コレクション対象となるようなキャラクターを 20 種類、学生に提案させ、キャラクターのコンセプトとイラストレーションとして表現される印象の差異の検証と調整を繰り返した。本研究では人気キャラクターを用いた事例は散見することができるが、地域のコミュニティの一端に担う子供食堂が対象となっている先行事例が少ないため、本年度に完成したツールを用いた検証とそのフィードバックをふまえたデザイン上の調整に引き続き、取り組んでいきたい。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

3. 主な経費

研究及び制作のための PC、比較分析のためのフォントデータ、実践及び検証のためのソフト、及び印刷用資材の購入。その他、学会等の参加費。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

意匠学会 役員（広報委員長）

(本文は 2 ページ以内にまとめること)